

広島商船高等専門学校アセスメントプラン（学修成果の点検・評価の方策）

広島商船高等専門学校では、本校の教育カリキュラムが3つのポリシー（アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー）に基づき適切に運用しているか、3つのレベル（全学レベル・学科レベル・科目レベル）における学生の学修成果等を評価することにより検証し、全学的な教育改善につなげるため、アセスメントプランを定めています。

点検・評価は自己点検評価委員会で行われ、その結果は企画総合調整会議においてマネジメントレビューされ、改善すべき事項が決定されます。企画総合調整会議から各部署に改善依頼が出され、本校の教育の継続的改善を行います。3つのポリシーについても社会情勢の変化に鑑み、継続的な見直しを行います。

また、このアセスメントプランを公表することにより、学生・保護者・入学希望者・社会に対して教育の可視化を行い、教育の質保証に努めます。

実施日	令和8年1月22日
点検及び評価	自己点検評価委員会 副校長（評価担当）・各学科長・一般教科長・広島丸船長・総務課長・学生課長 メディアセンター長・国際交流室長・学生相談室長

実施日	令和8年1月26日
マネジメントレビュー （改善指示）	総合企画調整会議 校長・教務主事・学生主事・寮務主事・副校長（総務担当）・専攻科長・事務部長

ディプロマポリシー					
教育成果の検証					
観点	評価の根拠となる資料	担当部署	担当部署のコメント	評価	マネジメントレビュー
本科卒業生の最終学年成績平均評価点から教育効果が認められるか ※入試成績から含める	成績資料（本科卒業生） ①-1・2R06_入試総合成績と最終学年成績評価点の関係（推薦・学力）	教務委員会 （教務主事）	最終学年の成績評価点が推薦による入学者が83点、学力による入学者が77点と標準である70点を概ね超えていたことから、十分な教育効果があったと認められる。	■改善なし □改善検討 □改善指示	最終学年の成績が十分達成されているので、入試から卒業までの期間で十分な学力を身につけることができていると認められる。
専攻科修了生の最終学年成績平均評価点から教育効果が認められるか	成績資料（専攻科修了生） ②R06_指導教員及び複数教員による特別研究の評価	専攻科委員会 （専攻科長）	最終学年の成績評価に於いて、履修科目に対する「良」以上の割合が海事で70%、産業で80%と高い値を示していることから、十分な教育効果があったと認められる。	■改善なし □改善検討 □改善指示	最終学年の成績が十分達成されているので、入試から修了までの期間で十分な学力を身につけることができていると認められる。
本科卒業生及び専攻科修了生の進路状況、就職及び進学先の外部評価から教育効果が認められるか	③-1R06_学科・専攻別就職先分析シート ⑤-1R06_アンケート分析（R05 就職先進学先）	教務委員会 （教務主事） 専攻科委員会 （専攻科長）	各学科・専攻の教育成果を発揮できる企業先に就職あるいは進学していることが確認されている。また、就職及び進学先の評価も十分であると考えられる。	■改善なし □改善検討 □改善指示	各学科の卒業生及び各専攻の修了生の進路が学習目標を達成し、十分な教育効果を得ることができているので、今後も継続すること。
学修成果の検証					
分野横断的能力簡易テスト結果・資格取得状況及び国家試験合格状況から、学修成果が認められるか	④-1・2R06_分野横断的能力（学科比較・学年比較） ④-4R06_国家試験合格状況（商船学科）	教務委員会 （教務主事）	分野横断的能力は学年が上がるごとに伸びており、5年次ではおおむね7以上であることから、学修成果に結びついていることが認められる。	□改善なし ■改善検討 □改善指示	M 科が就職活動に自信が持てないとのデータがあるので、学科に周知し、就職担当と連携して対応すること。
満足度					
本校の教育に対する満足度について、卒業時のアンケート、卒業後アンケート、保護者からの意見、第3者からの意見を総合して十分か	⑤-1・2R06_アンケート分析結果（卒業生修了生、既卒、就職先、進学先、保護者）	FD委員会 （評価担当）	FD委員会としては、毎年度卒業生修了生、既卒、保護者、進路先企業、進学先大学のアンケート結果を分析・評価して次年度以降の教育改善や学内での研修に役立てている。アンケート結果は5段階評価でおおむね3.5以上はあり、十分な教育効果があったと評価できる。	□改善なし ■改善検討 □改善指示	卒業時・修了時に身に付けられている知識・能力についてはアンケート結果から十分な満足度を得られたと判断できる。ただし、記述の回答については各学科各専攻で共有し、検討すべき点は検討すること。

総合					
以上の評価を総合して、学生は DP にあげた力を身に付けていると判断できるか	-	-	-	<input checked="" type="checkbox"/> 改善なし <input type="checkbox"/> 改善検討 <input type="checkbox"/> 改善指示	成績評価など総合的に評価した結果、進級基準及び卒業認定基準を満たしており、DP にあげた力を身に付けていると判断できる。
総合的な判断や社会情勢の変化から、DP の見直しが必要か	-	-	-	<input type="checkbox"/> 改善なし <input checked="" type="checkbox"/> 改善検討 <input type="checkbox"/> 改善指示	DP の内容については見直しの必要はないが、中学生にもわかりやすい表現に修正すること。

カリキュラムポリシー					
観点	評価の根拠となる資料	担当部署	担当部署のコメント	評価	マネジメントレビュー
本科の教育課程編成の方針について、全学科がカリキュラムポリシー（CP）に沿った適切な授業科目を体系的に配置しているか	⑥-1R06_カリキュラムマップ（本科） ③-1R06_学科・専攻別就職先分析シート	教務委員会 （教務主事）	各学科の就職先の集計結果より、CP に基づき授業科目が適切に配置され、就職先で必要となる能力を身につけるカリキュラムを配置できていると考えられる。	<input checked="" type="checkbox"/> 改善なし <input type="checkbox"/> 改善検討 <input type="checkbox"/> 改善指示	現行カリキュラムについては各学科の CP に沿った授業科目を配置しており、卒業生が各学科の特色を生かした就職先についていると認められる。
専攻科の教育課程編成の方針について、全専攻がカリキュラムポリシー（CP）に沿った適切な授業科目を体系的に配置しているか	⑦-1R06_カリキュラムマップ（専攻科） ③-1R06_学科・専攻別就職先分析シート	専攻科委員会 （専攻科長）	カリキュラムマップに示す通り、CP に基づき授業科目がバランスよく適切に配置され、教育課程が体系的に編成されている。各専攻とも修了生を送り出した就職先で必要となる能力を身につけられるカリキュラムを適切に配置できていると考えられる。	<input checked="" type="checkbox"/> 改善なし <input type="checkbox"/> 改善検討 <input type="checkbox"/> 改善指示	現行カリキュラムについては各専攻の CP に沿った授業科目を配置しており、修了生が各学科の特色を生かした就職先についていると認められる。
教育・学修方法に関する方針に沿った授業が展開されているか （留学・インターンシップ等のプログラム）	⑧-1R06_インターンシップ参加一覧 ⑧-2R06_インターンシップ実施報告書（抜粋）	教務委員会 （教務主事）	参加実績は M 科 2 件、C 科 25 件、D 科 57 件と M 科のみ参加が少ない集計結果となった。実施報告書の提出がないことが理由とも考えられるが、実社会における報告書の重要性の認知を高める必要がある。	<input type="checkbox"/> 改善なし <input checked="" type="checkbox"/> 改善検討 <input type="checkbox"/> 改善指示	インターンシップを体験した事実を下級生にも情報共有することで、よりよい就職情報の共有することができる。そのための方策を検討すること。
その他教育・学修方法に関する方針について、外国語の基礎能力、他機関との単位互換、資格取得に関する教育その他の方針に沿った取り組みがなされているか	⑨-1R06_TOEIC 成績 ⑨-2・3R06_他機関との単位互換状況（事例なし） ⑨-4R06_資格取得による単位認定	教務委員会 （教務主事）	本年度の TOEIC-IP スコアの中央値は 247 点であり、昨年度と比較すると 50 点ほど低い。また、400 点以上の学生がほとんど見られなかった。 本年度は他機関から認定された事例はな	<input type="checkbox"/> 改善なし <input checked="" type="checkbox"/> 改善検討 <input type="checkbox"/> 改善指示	TOEIC の受験や他高専の授業の受講については学生に対する周知、資格取得についてはその意義やメリットなどのアピールは継続して実施すること。

			かった。資格取得による単位認定については日商簿記3級により特別学修1単位を取得した事例が1件あった。		
教育レベルは適正か	在学生の成績 ⑩-1R06_授業評価アンケート 集計結果 ⑩-2R06_原級留置状況	FD委員会 (評価担当)	在学生による授業評価アンケート結果では、多くの教員の授業評価が5段階評価で4前後あり、相応な教育効果があったと認められる。	<input checked="" type="checkbox"/> 改善なし <input type="checkbox"/> 改善検討 <input type="checkbox"/> 改善指示	各学科各専攻ともに適正な教育レベルであることが確認されたが、原級留置者も多いので平均点と授業評価アンケートが低評価の科目を中心に原因を調査すること。
FD活動により教育内容・方法の改善に努めているか	⑪-1R06_FD研修実施状況 ⑪-2R06_授業評価ヒアリング記録	FD委員会 (評価担当)	R6年度には3月に学生と教員とのコミュニケーションを題材とするFD研修会を、外部講師を招いて行った。また新任教員には授業参観とベテラン教員との座談会を行い、様々なアドバイスをを行っている。	<input type="checkbox"/> 改善なし <input checked="" type="checkbox"/> 改善検討 <input type="checkbox"/> 改善指示	新任教員や非常勤講師を含め、授業参観及びヒアリングはしっかりと実施できている。教員に求められている資質も変化しているので、それに対するFDの実施も検討すること。
満足度					
本校の教育に対する満足度について、アンケートの結果から十分であると判断できるか	⑤-1・2R06_アンケート分析結果(卒業生修了生、既卒、就職先、進学先、保護者)	FD委員会 (評価担当)	アンケート結果の分析から、おおむね5段階評価で4の達成があり、十分な教育効果があったと認められる。	<input type="checkbox"/> 改善なし <input checked="" type="checkbox"/> 改善検討 <input type="checkbox"/> 改善指示	本校のカリキュラムに対する満足度はアンケート調査からも十分であることがわかったが、学科によってはまだ上がる余地もあるので、検討する必要がある。
総合					
以上の評価を総合して、CPに沿った教育が行われていることが認められるか	-	-	-	<input checked="" type="checkbox"/> 改善なし <input type="checkbox"/> 改善検討 <input type="checkbox"/> 改善指示	CPに沿ったカリキュラムを展開していることが資料から確認できた。
現在の評価状況からCPの見直しが必要か	-	-	-	<input checked="" type="checkbox"/> 改善なし <input type="checkbox"/> 改善検討 <input type="checkbox"/> 改善指示	社会情勢やニーズには対応できているので、内容を変更する必要はないが、わかりやすい表現に修正すること。

アドミッションポリシー					
観点	評価の根拠となる資料	担当部署	担当部署のコメント	評価	マネジメントレビュー
本科の入学選抜の基本方針に沿った入学選抜方法（学生募集の方針、選抜区分（学力選抜、推薦選抜等）、面接内容、配点・出題方針等）となっているか	学生募集要項（推薦・学力・帰国生徒・編入学） 入学選抜審査要項（推薦・学力・帰国生徒・編入学）	入試委員会 （教務主事）	昨年度のマネジメントレビューにて編入学の学力入試合否判定方針が明確でない と指摘された点については、配点を明示した。また、推薦選抜の活動成果の評価については、評価の集計方法を見直し、評価割合を 10 点から 20 点に引き上げた。	<input type="checkbox"/> 改善なし <input checked="" type="checkbox"/> 改善検討 <input type="checkbox"/> 改善指示	編入学の合格判定基準については入試委員会で検討した後に入学選抜要項に明記すること。活動成果の評価割合については、入試委員会でしっかりと検討すること。
専攻科の入学選抜の基本方針に沿った入学選抜方法（学生募集の方針、選抜区分（学力選抜、推薦選抜等）、面接内容、配点・出題方針等）となっているか	専攻科学生募集要項（推薦・学力・社会人・二次募集） 専攻科入学選抜審査要項（推薦・学力・社会人・二次募集）	専攻科委員会 （専攻科長）	前年度のマネジメントレビューを踏まえ、以下の対応を実施。 【指摘①】入学選抜の合否判定方針については専攻科委員会で検討した後に、来年度入学募集から反映させること。 【対応】入学選抜の合否判定方針を見直し各委員会に於いて審議・承認され、運用を開始している。 【指摘②】定員に対する推薦募集人数の割合についても専攻科委員会で検討すること。 【対応】現在も、推薦・学力・二次募集の合計人数のみ明示している。これは、推薦・学力で募集割合を決めず評価上位者から合格を与えることを前提とした対応で、昨今の志願者事情を鑑み、現時点では割合を定めない。	<input type="checkbox"/> 改善なし <input checked="" type="checkbox"/> 改善検討 <input type="checkbox"/> 改善指示	入学選抜の合否判定方針については専攻科委員会で検討した後に、来年度入学募集から反映させること。定員に対する推薦募集人数の割合についても専攻科委員会で検討すること。
実際に入学した本科学生が、AP に沿っているか	⑫-1・2R06_入試総合点と1年前期中間試験評価点の関係（推薦・学力） ④-3R06_分野横断的能力	教務委員会 （教務主事）	前期中間評点平均について、推薦選抜による入学で 84.1、学力選抜による入学で 74.8 と、目標である 70 点を上回っており、AP の「学校で学習した基礎学力が身につけている人」を満たしていると考えられる。 また、入学後に実施した分野横断的能力	<input checked="" type="checkbox"/> 改善なし <input type="checkbox"/> 改善検討 <input type="checkbox"/> 改善指示	学力の3要素について、成績及び簡易テストの結果から AP に記載されている能力を持った学生が入学したと判断できたので、引き続き実施すること。

			簡易テストの平均が6点以上であったことから、その他のAPである「学校の行事、生徒会や部活動に努力した人」「自ら考え、工夫し行動できる人」「将来、社会で活躍したいという夢のある人」を満たしており、入学した学生は本校のAPに沿っていると判断できる。		
実際に入学した専攻科学生が、APに沿っているか	入試成績と定期試験成績の相関 調査書・推薦書 入学試験選抜判定資料	専攻科委員会 (専攻科長)	定期試験成績よりAPに沿っていることが評価される。また、前年度のマネジメントレビューを踏まえ、以下の対応を実施。 【指摘①】選抜試験の出願時におけるAPを意識するような方法を検討すること。 【対応】推薦および、二次募集に於いては面接にて確認し、学力試験においては、出願時に募集要項冒頭に記載しているAPを確認させ、自己申告(出願書類にチェック)した者が受験可能としている。 【指摘②】人数が少ないので在学中において学生がAPを確認する方法も検討する必要がある。 【対応】入学式後に実施する説明時に専攻科長と共にAPを読み上げ、今後の学習がその上に成り立つことを意識させるようにしている。	<input type="checkbox"/> 改善なし <input checked="" type="checkbox"/> 改善検討 <input type="checkbox"/> 改善指示	選抜試験の出願時におけるAPを意識するような表現を検討すること。また、人数が少ないので在学中において学生がAPを確認する方法も検討する必要がある。
総合					
現在の評価結果から学校全体のAPの見直しは必要か	-	-	-	<input type="checkbox"/> 改善なし <input checked="" type="checkbox"/> 改善検討 <input type="checkbox"/> 改善指示	学校のWEBページで本科及び専攻科のアドミッションポリシーが探しにくく、また表現もわかりにくいので、その点を含めて修正しておくこと。